

## 地域包括ケアに関する意見交換について

地域ケア会議は、地域包括支援センター（以下「センター」という。）等が把握した地域課題を関係機関と共有し、地域づくりや資源開発、政策形成等へつなげていくための協議の場であり、日常生活圏域レベルで最も多く開催されている重要な仕組みである。これらの会議で抽出された課題は、区レベルにおいても、年に1～2回程度、区地域包括支援センター運営協議会の開催などに合わせて検討が行われ、地域全体の支援体制の強化に向けた議論が進められている。

市レベルの本協議会においては、こうした圏域・区レベルで共通してみられる課題を整理し、市全体としての方向性や連携の在り方を検討する役割を担っている。本日の意見交換テーマに関し、各委員の皆様から御意見を頂き、地域包括ケアの推進に向けた課題対応の参考とするとともに、今後の取組への方向性を共有したい。

### 【意見交換のテーマ】

#### 地域ですすめるACP～「いざ」の時から「いま」していくために～

- ACP（アドバンス・ケア・プランニング）は、人生の最終段階の医療やケアについて前もって考え、その希望や思いを家族や医療・介護の専門職など信頼できる人と繰り返し話し合い、共有する取組のことである。日本では2018年に厚生労働省が「人生会議」という愛称で啓発を始めた。
- 第9期広島市高齢者施策推進プランにおいては、ACPに関する市民向け教室等の参加者数の増加を目標として設定し、地域包括支援センターを中心に普及啓発を進め、開催回数及び参加者は増加している。

#### ACPに関する市民向け教室等の開催状況

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
開催回数	64回	149回	165回	193回

#### ACPに関する市民向け教室等の参加者数

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
数値目標	1,000人	1,500人	2,000人	3,500人
実績	1,364人	2,904人	3,460人	4,477人

- しかしながら、教室等の実施報告書を分析した結果において、以下のような普及啓発に関する課題が明らかになっている。
  - ・ACPの認知や理解不足があり、自分ごとになりにくい。（用語が難しい・イメージしにくいなど）
  - ・教室等への新規参加者が増えない。
  - ・教室等での学びが実践や行動につながりにくく、家族や身近な人との話し合いが進みにくい。
  - ・ACPは繰り返しの対話が必要であるが、継続的な取組につながりにくい。
- これらを踏まえ、以下の視点から御意見を頂きたい。  
市民がACPを自分ごととして考え、家族や関係者との対話を継続していくために、センターが取り組めることとしてどのようなことが考えられるか。また、地域で取り組めることはどのようなものが考えられるか。